

論文内容要旨

Peri-implant bone loss evaluation around dental implants placed into alveolar cleft sites.

(顎裂部におけるインプラント周囲骨の評価)

Dentistry 第6巻11号 2016年(掲載)

口腔外科学 鈴木麻衣子

【目的】本研究の目的は、顎裂部におけるインプラント周囲骨レベルの変化に影響を与える因子について解析することである。

【対象および方法】対象は顎裂部に腸骨移植が行われた後にインプラントで補綴修復された唇顎口蓋裂患者の中で、撮影された標準エックス線写真によってインプラント植立部の骨レベルの評価が可能であった31症例、46本のインプラントである。インプラント周囲の骨吸収量を目的変数とし、性別、裂型、顎裂部骨移植時年齢、顎裂部骨移植からインプラント埋入までの期間、インプラントの種類、インプラントの長さ、口腔前庭拡張術の有無、およびインプラント埋入時における骨移植の有無の8つを説明変数として共分散分析による統計学的解析を行った。

【結果】8つの説明変数の中でインプラント周囲の骨吸収量に影響を与えていた因子は性別、口腔前庭拡張術およびインプラントの長さの3つであった。男性は女性よりも骨吸収量は高く ($p=0.00396$)、口腔前庭拡張術を行うと骨吸収量は高くなる傾向を示し、 ($p=0.00293$)、そしてインプラントが長いものほど骨吸収量は高くなっていた ($p=0.02088$)。

【結論】顎裂部に対するインプラント治療では、non-cleftの健常人には見られない様々な因子が複雑に関連している。したがって、顎裂部におけるインプラント治療の指針を確立するためには、さらに多くの症例を対象として、インプラント周囲の骨吸収に影響を及ぼす因子に関する詳細な解析が必要であろうと考えられる。